

シンポジウム 器械運動

「誰にでもできる器械運動授業づくりのコツ」

コーディネーター：三木 四郎（大阪教育大学）

当学会では、すでに器械運動の指導や授業のあり方の改善をめざして昨年度は「運動感覚を育てる器械運動の指導」やさらには「道しるべ学習方式の提案」「集団的な器械運動の実践」などをシンポジウムとして取り上げて来ました。今回のシンポジウムは、20回の記念学会としてそれらを総括する意味で、体操競技経験者以外の誰にでもできる器械運動の授業づくりの要点を提案し、一般に難しいとされている器械運動の授業を誰にでもできる取り組み易いものとして提案することが、このシンポジウム目的です。器械運動という運動財が子どもの成長発達にとって有益なものであることを再認識し授業の活性化が計ればこのシンポジウムの目的は達成されたといえます。シンポジストの方々には、以下のテーマに則して、日頃の実践の中から器械運動の授業づくりに資するポイントを提案して頂きます。

テーマ1「動感能力の向上を図る授業づくりのコツ」

藤沢市立羽鳥小学校 池田 剛

このテーマは、小学校低学年の基本の運動のうち、「器械、器具を使った運動」やいわゆる「慣れの運動」として取り扱われる運動群が、器械運動の技を習得する上で、動感能力を充実させる予備的な運動として重要な意味をもっていることを実践の中で例証して頂きます。

テーマ2「集団演技を目ざす授業づくりのコツ」

深谷市立岡部中学校 橋本 雅之

このテーマでは、すでに学習指導要領で、「個人や集団で楽しむ」楽しみ方として集団演技は、どのような手順で行うことが有効なのかを既に多くの実践経験をお持ちの指導者として活動されている経験のなかからそのポイントを提言して頂きます。

テーマ3「個別の道しるべを見つける授業づくりのコツ」

所沢市立三ヶ島小学校 日下 宏之

このテーマでは、特に器械運動を苦手と感じている生徒にとって個別の道しるべをみつけアドバイスするための方法論を実践的に提言して頂きます。

以上の3点に絞って、授業づくりのポイントを提案したいと考えます。